

長野県革新懇ニュース

2021 年 4 月号

発行日 4 月 10 日

会 費 2,000 円
購 読 料 3,000 円 (送料込)
口座番号 00510-3-15971
加入者名 長野県革新懇

263

発 行 日本と信州の明日をひらく県民懇話会

(長野県革新懇) 発行人: 山口光昭 編集長: 高村裕

〒 380-8790 長野市県町 593 高校教育会館内

TEL: 026-234-1231 FAX: 026-234-2219 メール: mail@nagano-kakushinkon.com

==== 今号の主な記事 =====

- 1 面 羽田次郎さんインタビュー
2 面 1 面続き、「近現代信州の歴史回廊」杉山洋子さん
3 面 「日本を文化レベルの高い国にしたい」成瀬千秋さん
「正念場の日本郵便」磯野博康さん 読者の声、漢字パズル
4 面 雨よ降れ 「演歌」なつかし 窪島誠一郎さん
写真で辿る信州と戦争「敗戦間際の狂気 (3)」北原高子さん
映画評論『すばらしき世界』内山到さん

長野県革新懇

検 索



市民と野党の共同の上に 兄の志をかならず引き継ぐ

は た じ ろ う
羽田 次郎 さん

参議院長野選挙区補欠選挙

予定候補者

1969 年 9 月 7 日生まれ

1988 年、フランスアルザス成城学園高等学校卒業、1995 年、米国のノースカリフォルニア州ウェイクフォレスト大学中退、その後、羽田孜氏の秘書。

現在、フェザーフィールド株式会社代表。

尊敬する人物尾崎行雄。座右の銘は、頭は低く目は高く口慎んで心広く孝を原点として他を益す

あまりの衝撃に
語るべき言葉がない

Q 現在の率直な心境をお聞かせください。

昨年の 12 月 27 日、兄が何の前触れもなく突然、新型コロナウイルス感染症によって命を失いました。まだ 53 歳という若さでした。私がその第 1 報を兄の秘書から受けたのですが、その時の衝撃はとて言葉にできません。そして、私が直接そのことを母に伝えなければならなかったのですが、その時のことを思い出すと涙が溢れてきます。兄には、男の子二人に加え、10 歳離れた 4 歳の女の子がいて、本当に目に入れても痛くないというような可愛がり方をしていたものですから、家族のことを思うと胸が張り裂かれるような気持ちです。兄が亡くなってまだ 2 ヶ月半ぐらいなのですが、さまざまな思いが去来して、心の整理がなかなかつかないというのが率直な気持ちです。また、いまだに納骨すらできていないという状況です。

PCR 検査ができず
直後に症状が急変

Q 政府のコロナ対策についてはどうお考えですか？

兄の場合、体の不調を訴えて PCR 検査を受けようとしたわけですが、すぐには受け入れられず、直後に急変して、手遅れになりました。そういう意味では、誰でも心配

になったら PCR 検査が受けられるようにするとか、体調を崩したらすぐに入院できる施設の拡充を実現していかなければいけないと痛切に思います。昨年 4 月の感染症の第一波拡大の頃から、冬にはもっと厳しい状況になるだろうと専門家会議も提唱していた、半年以上の期間があったわけですが、他国ではそのことを見越して、ある程度の対策をしている中で、日本では検査体制の拡充とか療養施設の確保ということが結局できていなかったというのは、政府の不作為だったという気持ちになります。それを思うと本当に無念です。後手、後手になっている今の政府の対応を何としても正していかなければいけないと思います。

普通の人の感覚を
大切にしたい父と兄

Q お父さんやお兄さんの思い出をお聞かせください。

父の秘書として地元で 3 年ほど、東京時代を合わせると 10 年以上関わってきましたが、父が中堅議員の頃だったと思いますけど、島崎藤村が故郷の木曾について語った「血につながるふるさと、心につながるふるさと」という言葉を用いて「血の通う政治 心の通う政治 普通の言葉が通じる政治」ということをよく演説で訴えていました。それは永田町の論理ではなくて、市民感覚での政治を目指している父の政治姿勢を語っていたものです。私自身も今の永田町の論理みたいなこと

にうんざりしているところなので、私も父の言葉やその思いを引き継いで、街頭演説の中で話させて頂いています

兄については「チルドレンファースト」ということをずっと言っていて、国土交通大臣になった時も子どもたちの未来のことを考えた政策を行っていくべきだと発言し続けていたんですが、それを引き継ぐ気持ちで今回立候補を決意した次第です。そういう意味では、子どもや孫たちのためになる政治をめざしていきたいということを街頭でも話させて頂いています。

ですから、父の普通の感覚の政治ということと、兄が語っていた未来の子どもたちのための政治ということの二つを訴えております。父や兄は日ごろから普通の人の感覚を失わないようにしていたと思うので、私もそのスタンスでやっていきたいと考えています。実際に困っている方のお話を選挙戦を通じて少しでも多く聞いて、この地域の皆さんの代弁者としての役割を果たしていきたいと思えます。

協定書の政策実現に
全力を尽くす

Q 協定書についての思いをお聞かせください。

今回の補欠選挙というのは、欠員した議員の残りの任期を引き継ぐ選挙ですので、そういう意味においては、2019 年の参議院選挙で市民と野党の統一候補として兄が与党候補に大きな差をつけて勝たせて頂いたわけ

すから、故人の政治姿勢や政策を受け継いでいくことが重要だと思えますし、前回交わされた協定書を遵守することは当然のことです。そうした流れの中で、今回信州市民アクションの皆さんと共産党、社民党、立憲民主党と私で結ばせていただいた政策協定によって、私自身が市民と野党の統一候補として認めて頂いたわけです。それは本当にありがたいことですし、そのことを誇りと自信にして今回の選挙を闘っていききたいと思えます。また、協定書に盛り込まれた政策については少しでも実現に近づくように働いていきたいと思っています。

憲政の父
尾崎行雄を尊敬

Q 今の国会のあり方についてはどのようにお考えですか？

私の名刺の裏に尊敬する人物として尾崎行雄翁の名前が書いてあります。尾崎行雄は明治から昭和にかけて 60 年間、国会議員を続けられた「憲政の父」と言われている方ですが、大正 14 (1925) 年に書かれた『政治読本』という本の中で、国民の生命財産に関する法律は、国民自ら制定することが立憲政治の本旨であり、議会で制定された法律を運用して国民の福祉を向上させるのが行政であり、不当に侵害された権利を保護して回復させるのが司法であるということを書いています。太平洋戦争が始まるずっと前の 1925 年にこうしたことを訴えていた政治家が日本



【1面より続く】
にいたのはすごいことだと思
います。尾崎行雄は、大政翼
賛会ができた時も推薦には一
切応じないで、それこそ命を
狙われながらも自分の信じる
政治や平和主義を唱え、世界
連邦をつくるべきだというこ
とをずっと昔から言っていま
した。もちろん時代の制約が
あって、今の価値観で考えた
らちよつと首を傾げるような
ことはいくつもあるのです
が、それにもまして政治を志
す人ですとか政治家が学ぶべ
きところは多いという気がし
ています。

民から選ばれた政治家が遵守
し、尊重すべき大原則です。
憲法に立脚して、国会が法律
をつくって、行政そして司法
がそれを運用していくという
ことが立憲主義の根幹であ
り、大事にしなければいいな
いものです。

尾崎行雄は、たとえ小さな
声であっても耳を傾けるべき
だと述べています。例えば野
党が正しいことを言っている
のであれば、議論を重ねたう
えで、大きな党、与党も賛成
するべきだということも言っ
ています。

今回、国会議員の選挙に立候
補するわけですから、その辺
のことを踏まえて、本場に議
会を重視して、立憲主義が日
本でもしつかりと根付くよう
な働きをしていけたらと思っ
ております。

原発依存の政策は 正していくべき

Q 今日3月11日ですが、原発
問題についてはどのようにお
考えですか？

戦後まもなくから原子力の
平和利用ということが徐々に
言われ始めたわけですが、や
はりそれはアメリカからの強
い影響があつたからです。当
時の認識で言えば最先端の技
術ですし、資源のない日本に
とっては原子力というのが日
本を復興させるための電力源
として必要だと考えて採用し
たわけです。ひとつの見方と
しては、原子力発電によって
日本経済が他よりも早く復興
したという側面はあると思ひ
ます。

その結果、安全神話ができ

あがり、10年前に東日本大震
災が起きるまでは、安全だと
言われてきました。ただ安全
だと言っているものの、核
のゴミの処理問題をどうする
かということが一切ないま
ま、ずつと原子力に頼るよう
な政策を続けてきたわけで
す。このことは、強い言葉で
言えば国民を欺いていたとい
うように私は感じますし、そ
れは正していかなければいけ
ないと思います。

ただ他方で、国が進めてき
た政策によって多くの雇用も
生まれているわけですし、そ
れによって地域経済が成り
立っている部分もあるの
で、原発を止めるというからには
代替の新しい雇用や新しい電
力を生み出すことが必要にな
ります。そのことを考えると、
実際問題として今日明日にた
だちに止めるということは困
難だと思うので、それは並行
してどういう技術だったら電
力を賄えるのか、あるいは新
しい技術、新しい電力に対し
てどれくらいの雇用が生まれ
るのか、それらを確保するた
めに期間がどれくらいかかる
かということによって、いつ
原発を止めることができるか
ということも決まってくるの
ではないかと思っています。

いずれにしても、スウェー
デンでは核廃棄物を貯蔵する
場所が数万年は必要だと言わ
れている中で、それくらいの
耐久性がある施設が日本であ
るかといったらもちろんない
ですし、そういう意味で本当
にたくさん問題をはらんだ
選択を当時してしまったわけ
です。10年前の東日本大震災
とそれに伴う福島原発の重大
事故によって白日の下に晒さ
れた過ちを待たなして正し

ていかなければいけない時期
に来ていると思います。

そういう意味では、今回協
定書に原発ゼロが含まれてい
て、そのことに対するリアク
ションがあつて、いろいろと
対応しているところですが、
先ほど申し上げたように今回
の補選では兄が前回選挙で結
んだ協定書が生きているわけ
で、そこには原発問題も記さ
れています。政治家を志す人
間が、つい先日自分でサイン
した協定書を破棄するような
ことはできません。もしも信
州市民アクションの皆さんと
か3野党と結んだ協定書を破
棄するようなことがあれば、
次の新しい協定書もまた破棄
する可能性があるわけですか
ら、そういう意味ではもちろ
ん私自身も無かつたことにす
るとかサインした後に改定し
ましようなどということは全
く考えておりません

決意と覚悟を持って 参院補選を勝ち抜く

Q 最後に改めて選挙戦に向けた
決意をお話ください。

私の決意はかなり語ってき
たとは思いますが、やはり兄
が22年間守ってきた参院長野
選挙区の議席、信州の皆さん
のこのまま自民党中心の政権
を続けてはいけないという思
い、その議席を絶対に与党に
奪われてはいけないという思
いを大きな力にし、何として
もこの闘いを勝ち抜くという
決意と覚悟を持って4月25日
まで頑張つて参ります。

【聞き手・山口光昭。3月11日、
長野市の選挙事務所にて】